

# 慈眼

## 第27号

発行所  
唐津市西十人町127 法蓮寺内  
TEL 0955-72-2393  
FAX 0955-74-4948  
**日蓮宗佐賀  
教化センター**  
発行責任者  
藤山英周

### 佐賀地区檀信徒研修道場

## 「護法の集い」

今まで二年に一度開催されていた全県的な「護法大会」が四年に一度の開催となり、そのかわり佐賀地区・小城地区・杵藤地区・多久唐津地区の四地区において毎年順番に開催されることとなった。

その第一回目として平成十八年十月二十二日、佐賀市妙玉寺を会場に



日蓮宗佐賀県宗務所主催・佐賀地区寺院共催により教師・寺庭婦人・檀信徒約百八十名が参加し佐賀地区檀信徒研修道場「護法の集い」が開催された。

午後一時三十分、陣内元良上人による開会の辞に始まり、日蓮宗佐賀県宗務所小寺大誠所長より「テーマの『立正安国・お題目結縁運動』は檀信徒だけでなく、未信徒や次世代へのお題目信仰のアプローチである」と言われ、今回の佐賀地区檀信徒研修道場開催の意義を説明された。続いて平井照山日蓮宗宗会議長より祝辞が述べられた。

法要に先立って、佐賀地区寺庭婦人による法華和讃の奉納があり、息のあった団扇太鼓の音、和讃の音が堂内に響きわたった。法要は導師を妙玉寺住職石井智俊



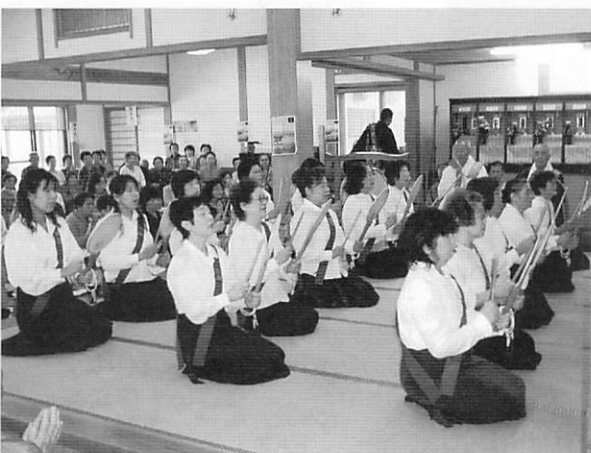
上人が勤め、式衆に佐賀地区寺院の各上人が出仕して執り行なわれました。今回のサブテーマ「家庭信行―みんなで拝まんば」の下、教師・寺庭婦人・檀信徒が一体となり、堂内にお経・お題目の大きな声が響きわたる法要となりました。

法要終了後、布教師会長静山是秀上人より日蓮大聖人の「立正安国論」についてのお話があり、続いて松島正英上人は「命の尊厳」をテーマにお話され、最後に国相寺の総代でもある石村萬盛堂社長石村善悟氏による信仰体験のお話があった。

休憩を挟んで仏教への質問(Q&A)では、檀信徒からお寺への質問で「お寺のご住職や奥様を何とお呼びすればいいのですか」などの質問がよせられました。

また、清興では、佐賀ユーモア協会にわか部会による「佐賀にわか」が演じられ、大いに盛り上がった。最後に、今大会の実行委員長である石井智俊上人が「佐賀地区檀信徒研修道場『護法の集い』は、初めて地区による檀信徒研修道場でしたが宗務所・佐賀地区寺院のご協力を得て無事に終えることが出来ました。檀信徒の皆様には、お題目信仰を家庭の中から広げ、深めて頂きたい」と謝辞を述べられ、古賀俊完上人による閉会の辞で、今大会を結ばれました。

参加者一同は「立正安国」を目指して、尚一層のお題目信仰に精進して行くことを誓い散会致しました。



# 【特集】

## 《鍋冠日親上人》

松尾山中興の祖・久遠成院日親上人の御生涯を紹介します。

日親上人は、応永一四年（一四〇七）に、上総国埴谷（千葉県山武市埴谷）の埴谷氏一族にお生まれになり、埴谷氏が信仰していた中山法華経寺（千葉県市川市）の日英上人の弟子となりました。

応永三四年に中山をたつて上洛され、伝道活動の第一歩として一条戻橋のたもとで説法されました。

やがて「九州の導師」として、肥前国小城郡松尾（佐賀県小城市）の光勝寺へ下向され、ここで教団の指導にあたら



松尾山光勝寺親師堂

ました。それまでの光勝寺は中山法華経寺と両山一主制（兼任）でしたが、初めて専任の住職として日親上人が迎えられたのです。

ところが、日親上人は厳格な日蓮宗の信仰を主張され、領主の千葉一族を厳しく批判されたために、永享九年（一四三七）ついに破門されて光勝寺を去り、再び上洛されました。

佐賀県内には光勝寺をはじめ、日親上人により開かれた寺院、他宗より改宗された寺院や、霊跡が数多くあります。

その翌年、將軍足利義教に対して、日蓮聖人の教えを信奉し他宗の信仰を捨てることを直訴されましたが、まったく顧みられませんでした。そこで再び諫暁を試みようとして『立正治国論』を著され、これを浄書しているうちに捕われて牢に入れられました。牢の中で日親上人はいろいろと厳しい刑罰を加えられましたが、その翌年に將軍が謀殺されたので、特別の恩赦によって出獄されました。

この後、日親上人は、京都に本法寺を

建立されてここを本拠とし、全国各地を廻って伝道にとめられました。ところが日親上人の主張は日蓮聖人の教えを守ることを厳しく要求し、他宗を激しく攻撃するものでしたから、行く先々で迫害を受けられました。熱く焼けた鍋を頭にかぶせられても信念を貫いたといわれ、「鍋冠日親」と呼ばれるようになりました。



光勝寺の日親上人像

幕府はこのような伝道活動を続ける日親上人を罰し、寛正三年（一四六二）再び牢に入れられました。その翌年八月には臨時の大赦が行なわれて、自由の身となりました。

これより日親上人は、自らの伝道の旅に赴かれることは少なく、京都本法寺を本拠に教団の整備を積極的に進められました。

八二歳になられた長享二年（一四八八）九月、日親上人は病にかかられ、伝道と法難の生涯を終えられました。

花と葬儀

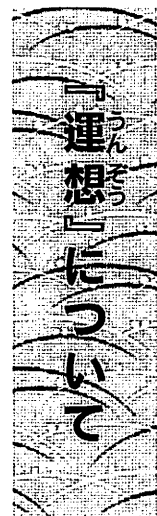
木下株式会社  
平安閣冠婚葬祭互助会



草苑 (SOU-EN)

北佐賀草苑 佐賀市兵庫町藤ノ木1115 (0952) 30-4040  
FAX・30-4043  
南佐賀草苑本店 佐賀市本庄町大字本庄951 (0952) 25-1255  
FAX・25-1088

佐賀の老舗 信用本位  
技術本位  
辻の堂の仏だんや  
**(株)本庄仏具総本店**  
佐賀市堀川町(辻の堂) ● TEL 0952・23-2955(代)



今回は、皆様も何度も読まれたことのある『運想』について解説したいと思えます。

これは、方便品や自我偈といったお経文ではなく、また、日蓮大聖人がのこされた御遺文でもありません。

『運想』（想いを運す）は、江戸時代末期、金沢に「充治園」という塾を興して近代日蓮宗の教学（教え）を確立し、日蓮教団の再興に貢献された「優陀那院日輝上人」という方が説かれた、お題目の想いにひたることを目的とした指南書（手引書）で、お題目や法華経を読む功德について述べてあります。つまり、お題目をお唱えすることはお釈迦様の説かれた法華経に想いをめぐらし、お釈迦様の御心を頂戴することでありますが、何

度もお唱えするうちに単調になりがちなものです。そこでこの『運想』の文を、お題目をお唱えする前にあらかじめ唱え

て、お題目に集中することが重要であるということ述べられております。

「唱え奉る妙法は、是れ三世諸仏所証の境界、上行薩藉靈山別付の真浄大法なり。」

お唱えする「南無妙法蓮華経」のお題目は、過去・現在・未来の三世にわたるすべての仏様が悟りに到達された境地をあらわすもので、教主であるお釈迦様が弟子である上行菩薩に命じて、末法の世でこの教えを弘めるよう特別に委嘱されたとても清らかなすばらしい大いなる教えなのです。

「一度も南無妙法蓮華経と唱え奉れば、則ち事の一念三千正観成就し、常寂光土現前し、無作三身の覚体顕われ、我等行者一切衆生と同じく、法性の土に居して自受法楽せん。」

だから、「南無妙法蓮華経」とお題目を一度でもお唱えしたならば、たちまちにお釈迦様の尊い救いの教えを正しく理解し体得することができますし、その眼の前にお釈迦様の悟りの世界を確かめるこ

とができ、そのお姿が現れその本体が明らかとなります。私達法華経の教えを一心に修行する者は、すべての人々と一体となり、その悟りの世界にあつて、自らがその悟りを味わい楽しむ境地を得られるでしょう。

「此の法音を運らして法界に充滿し、三宝に供養し、普く衆生に施し、大乘一実の境界に入らしめ、仏土を厳浄し、衆生を利益せん。」

この「南無妙法蓮華経」の唱題の声を周りに響かせて全世界に満ちあふれさせ、仏（お釈迦様）・法（法華経）・僧（お釈迦様の弟子・その教団）の三宝に供養を捧げ、すべての人々にその功德を施して、お釈迦様が説かれた大いなる教えの境地に導き、さらにはこの世界をおごそかで汚れない清浄な地にし、すべての人たちにこの教えの救いをもたらしましょう。

以上が本文の解説です。

先師が残されたこの教えを胸に、お題目修行に励み、その功德が世界中に弘まりますよう日々精進して参りましょう。

平成19年度・創業84年目、仏壇・仏具・墓石の総合プラザ

# 光古賀仏壇店

3代目 代表取締役社長 古賀宏昭

本社 〒840-0813 TEL(0952)23-5521  
佐賀市唐人町1丁目2-25 FAX(0952)23-5564



手を合わせるころを大切に・・・

## 山本仏具

佐賀市呉服元町10-12 23-4308  
〒840-0824 ☎ (0952)

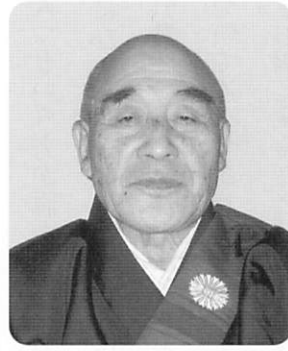
- ・寺院用具一式
- ・登高座壇
- ・仏壇櫃物
- ・前修天蓋
- ・人天蓋
- ・宗教絵画
- ・其
- ・金物壇
- ・須弥彫刻品
- ・美術彫刻品
- ・神像用具
- ・佛像彫刻
- ・宮様仏壇
- ・仏壇
- ・仏具
- ・仏像

殿器具路者

# 寺院紹介 (二十四)

## 《香徳山 梅林寺》

武雄市北方町大崎七六九



山中前賢 住職

広大な田園風景広がる中、本堂を守るかの様に大きな樟が正面に二本並び、木々に囲まれた静かなお寺です。

### 【交通】

祐徳バス大崎バス停より徒歩で約十分

### 【歴代上人】

- 開山上人 萬部院日賢上人
- 第二世 元除院日照上人
- 第三世より第六世まで不明
- 第七世 日明上人
- 第八世より第十一世まで不明
- 第十二世 元修院日順大徳
- 第十三世 日現大徳
- 第十四世 俊光院日理大徳
- 第十五世 智明院日長大徳
- 第十六世 観秀院日嚴大徳
- 第十七世 龍之院日清上人
- 第十八世 智徳院日榮上人

- 第十九世 正尊院日国上人
- 第二十世 慈光院日精上人
- 第二十一世 體玄院日祥上人

【本堂・庫裡・鐘楼】  
文久二年(一八六二)本堂が焼失し、

第十八世智徳院日榮上人代の明治三十四年十一月に現在の場所に移転し現本堂、庫裡が再建されました。第十九世正尊院日国上人の代に増築によって庫裡も大きくなり、第二十一世體玄院日祥上人の時にも増築され現在の姿になりました。また、昭和五十三年日祥上人により鐘楼を建立され、朝夕の静寂の中毎日欠かさず朝五時五十分、夕方六時にそれぞれ六回ずつ撞かれて時には人々の目覚まし時計となり、時には子供たちの帰宅時間として荘厳な鐘の音が鳴り響いています。

### 【ひらくち神さん】

御開山萬部院日賢聖人がこの地に参られた時、三十件ほどの部落でした。当時ひらくち(マムシ)に悩まされた土地の人の為に、何日もかけて一千万編の御題目を唱えて祈念されました。その時に記念の石碑が建立され、そこには奉唱満首題一千万返成就之処と記してあり、今でもその碑はひらくち神さんと呼ばれ残っています。

現在の姿は平成十六年五月に修復された物です。



千遍の碑

### 【御住職よりのお話】

(銀杏・樟・榿)

御先師達が植えられた梅林寺の銀杏、樟、榿等の樹木は見事な大木となり本堂、庫裡等を台風被害より守ってくれます。大木が無かったら、その被害を想像した時よくぞ頑張った、おおきにご苦労さん、御先師達の遺徳の大きさを偲んで、そのお陰に大感謝です。



樟

### (ケヤキ)

小学校六年生の十月十七日小僧になるために弟子入りした福岡の本仏寺の本堂は総ケヤキと紹介され、内陣の前机は大きな大きな前机で毎日のお勤めの朝勤で誰よりも早く本堂に行つてローソク線香に火をつけるのが自分の修行だと決めていました。修行の場の一つである内陣の板張りもまた総ケヤキでした。その時の思い出が梅林寺の本堂内部を改築した時、施工の業者に内陣の板張りはケヤキと依頼したところ、「反り返りますよ」との返事でうなずいてくれないのを是非との願いで見事なケヤキの板張りになりました。



仏壇・仏具・寺院用具・寺院納骨堂設計施工  
拜む心で尊い品を

## 梅谷佛具店

TEL 092-271-0456

本店 〒812 福岡市博多区下川端町10-9  
-0027 (地下鉄中洲川端駅下車)  
7番出入口・博多座裏

TEL 0120-39-0456

支店 〒819 福岡市西区周船寺3-9-4  
-0373

TEL 092-806-7499

総合葬祭 有限会社 黄城 葬祭会館 光 雲 閣

小城市三日月町大字久米2134-1  
代表 (0952)-73-3938  
TEL (0952)-73-2020